

09

11.19 (土)

13:10~14:40

文学部 国文学科

やまもと さわこ

山本 佐和子 准教授

## 戦国時代の日本語文法

—ことばで起きた下剋上?!

### メッセージ

国文学科ではどのようなことが学べるの？中世鎌倉・室町時代に、日本語は大きく変わります。本学キャンパスゆかりの京都に伝わる古い本や古典芸能を資料に、中世の日本語について考えます。

### 概要

国文学科では、奈良時代から近現代の日本文学と共に、歌謡・芸能など言葉を使った文化、それらに用いられる日本語の仕組みや歴史を学びます。

皆さんは、中学校から「古典」「古文」等の授業で、古い日本語を読んできたと思います。単語や古典文法を暗記しながら、「こんな外国語やん」とか、日本語がなぜこれほど変わってしまったのか「マジやめてほしい」と嘆いている人もいるでしょう。

色々な理由で、中学校・高校では、古典語と今の日本語との間にある、鎌倉・室町時代や江戸時代の話し言葉（上のカッコの言葉にあたる、当時の日本語）は殆ど習いません。日本語に何が起こったのか、その歴史を知れば、古典語がもう少し身近になるかもしれません。例えば、現在も人気の古典芸能、能・狂言や歌舞伎のセリフは、鎌倉・室町時代や江戸時代の言葉が元になっています。この講義では、狂言のセリフを手がかりに、日本語の歴史の一端を考えます。